

和・洋ことてん(百科事典)論考

——比較・分析・評価——

板 倉 勝 高
中 村 博 男

はじめに

図書はその使用の面から一般的に二つの種類に分つことが出来る。その一つは知識又は娯楽を得るために通読する書物で、その二は通読するのではなくある事柄を知るためその一部を参照するものである。この第2の種類 of 図書を Reference Book と普通呼ぶのである。Reference Book はその内容が広汎で記述が圧縮せられ正確な知識が早急に得らるるよう特殊な記述の排列がなされている。然しこの普通図書と Reference Book との区別は絶対的なものでない。一般に Reference Book と呼ばれているものは次のとおりである。

Reference Book ア 書誌 イ 索引 ウ 百科事典 エ 辞典 オ 統計書、年鑑
カ 政府刊行物

Reference を学術用語集¹⁾は「参照」と訳している。この訳語では、Reference の意味を説明するのにはなほ不十分である。図書館ハンドブック²⁾によれば「図書館によせられた質問、相談に接し、図書館の資料または機能を活用してこれにこたえること」という定義が用いられているが、別に適切な訳語は示していないようである。Reference の意味は、ほぼ、図書館ハンドブックのとおりであるが、国立国会図書館³⁾では、これに「参考調査または考査」という言葉をあてている。本論では Reference という言葉をそのまま用いる。Reference を担当する図書館員は Referencer と通称されるが、Referencer にはそれぞれ専門分野について深く、広い知識が要求されることになる。それだけに Reference は複雑困難な作業であるが、図書館としては利用者に対する図書館員の Service として最大のものである。研究者が文献の探索に費やす時間は、研究自体としては、非生産的時間であるが「研究時間の60%以上⁴⁾」を占めるというような報告もある。図書館の Reference は、このような文献探索の時間を最少ならしめる効果をもち、Reference の要求にこたえてはじめて、研究者と図書館が密着し図書館の役割を果すことができる。

比較・分析の必要性

Mudge は Reference Book のうち百科事典(ある分野、主題に限定された特殊・専門的事典、たとえば、歴史事典・キリスト教大事典・美学事典等を除く)について「百科事典は総ての図書館が参考事務の大半を行うところの背骨」⁵⁾であるといっている。図書館の Reference の75%⁶⁾あるいは80%⁷⁾は百科事典で解決する実情にあり、図書館の日常の Reference は、百科事典に始まり、更に深い知識をさがす要点になるものである。また、資料提供を適確・迅速にすることは、現代図書館活動の課題であるが、今日、百科事典は図

書館における Reference Tools として最良にして重要かつ高頻度の資料である。そして、百科事典の資料的価値の評価が一層進むにつれ、図書館利用者の百科事典の効果的利用法は重要視すべきであるが、あらゆる知識を総合集成する百科事典といっても限界がある。いかに最近刊とはいえ、無限大に近い今日の知識を数千ページ、多くとも2、3万ページの中で、利用者の要求する項目すべて何でもということは不可能であるし、又たとえ項目があっても、内容は妥当かどうか、妥当であっても専門的知識までは無理か、他の資料をぜひとも参照する必要があるか。さらに、最近刊の百科事典必ずしも十全の内容を持つものではなく、かえって古いものがその刊行された時代の文化的情勢を反映して、最新刊の辞典の欠点を補っている場合は少くない。知識の獲得という点から事典を無批判には使用できない筈である。そこで百科事典を効果的に使う為めには、百科事典の編集方針即ち大項目か小項目か、項目の見出し・排列、索引、時代に適合する連続改訂、年鑑補遺刊行等、それぞれの百科事典の構成を充分検討しなければならない。ここに例として、A大百科事典、B世界大百科事典、C日本百科大事典、D国民百科大事典の索引と本文で、I私書箱、II世帯、III大百科事典の三項目を検索してみると次の点が明確となる。(第1表)²⁸⁾

Aの場合

I 索引・本文：郵便私書函→私書函 ユウビンシシヨカン→シシヨカン 参照指示はない。

II：世帯 登載がない。

Bの場合

I 索引・本文：私書箱→郵便私書箱 ししよばこ→ゆうびんししよばこ 参照指示はない。

Cの場合

I 索引：私書箱→郵便私書箱 参照指示はない。

II 索引：世帯せたい→しよたい世帯 参照指示はない。

III 本文：農地法など 参照がない。

Dの場合

I 索引：私書箱→郵便私書箱 参照指示はない。

II：世帯 登載がない。

さらに、→(△△をみよ)、↪(△△をも見よ)の区別がなく誤りもある。このように百科事典の構成は利用者の立場からみると、極めて不十分で、編集者の独善性を現わし、利用者のための百科事典でないことを示す。これと対照的なのは、Bol'shaya Sovetskaya Entsiklopediyaである。これはアンケートの回答、約36,000によって絶えず原稿に手を加え、また投書によって編さん方針を一部変更、たとえば第7巻から見出語に accent を付けるなどして、可能なかぎり利用者の便宜をはかっている。百科事典の構成要素の検討から、このように百科事典の優劣が簡単に理解されるので、この作業は利用者の側からいえば利用以前に行はねばならない基本的課題である。さらに、検索方法だけでなく、頁数、字数、写真数により解説が詳細か簡潔か、記述は正確、公平か、参考文献の整備などもあわせて検討しなければならない。

以上の観点から百科事典の状態の比較・分析調査は、図書館・利用者の立場から極めて重要である。

比較・分析の基準

万人に納得される百科事典評価の基準を求めることはむづかしい、したがっていろいろの

第1表 項目比較対照表 I 私書箱^{註8}

事典名		A 大百科事典	B 世界大百科事典	C 日本大百科事典	D 国民百科大事典
項目の 見出し	索引	私書函 郵便私書函	私書箱 なし 郵便私書箱	私書箱 郵便私書箱	私書箱 郵便私書箱
	本文	シシヨカン私書函 ユウビンシシヨカン なし (ユウビン郵便の解説中に郵便私書函あり)	ししよばこ なし ゆうびんししよばこ郵便私書箱	私書箱ししよばこ郵便私書箱の略 郵便私書箱ゆうびんししよばこ	ししよばこ→郵便私書箱 ゆうびんししよばこ郵便私書箱

II 世帯^{註8}

項目の 見出し	索引	世帯 なし 世帯 なし	世帯 世帯→せたい	世帯 世帯	世帯 なし 世帯 なし
	本文	せたい なし しよたい なし (コ 戸の解説中に1戸は1世帯とあり)	せたい世帯→住民登録法 →生活保護法 →農地法など しよたい世帯→せたい	世帯せたい→しよたい所帯 世帯しよたい→戸籍 →住民登録法	せたい なし しよたい なし

III 大百科事典

項目の 見出し	索引	百科事彙-百科事典百科事典	《大百科事典》書名である	百科事典	百科事典
	本文	ヒヤツカジテン百科事典百科辞典	ひやつかじてん百科事典	百科事典ひやつかじてん	ひやつかじてん百科事典
頁数		2 ¹ / ₂	4 ¹ / ₅	1 ¹ / ₁₀	1 ¹ / ₂
字数		4,340	3,280	2,780	1,408
写真数		0	0	2	2
Britanica についての記述解説要点		1930年 14版	チェバースによつて示された編集権威と参照の方式を十分活用した。	事典名のみ	14版(1929 23巻と索引・地図1巻)現在はシカゴ大学の監修のもとに刊行される。

上記の参考 研究社英米文学辞典：14版24冊は1929-30年ロンドンとニューヨークにおいて刊行第二次大戦後は Chicago 大学が版權をもっている。

研究社世界文学辞典 14版1929-30年に出た、第二次大戦後シカゴ、ケンブリッジ、オックスフォード、ロンドン各大学の教授団の監修の下に増補版が出た。

A 編 集 法

事典名 区分		大 百 科	国 民 百 科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ス ハ ウ ス	イ タ リ ア ナ	世 界 大 百 科	日 本 百 科	国 民 百 科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現 代 新 百 科	家 庭 大 百 科
項目の立て方		小項目	小項目	大項目 小項目 大項目 小項目 大項目 小項目	小項目	大項目 小項目 大項目 小項目 大項目 小項目	大項目 小項目 大項目 小項目 大項目 小項目	小項目	小項目	大項目 小項目 大項目 小項目 大項目 小項目	小項目	大項目
項目 排 列		五十音順	五十音順	アルファベット順	アルファベット順	アルファベット順	五十音順	五十音順	五十音順	分野または主題別	五十音順	分野または主題別
改訂・ 年鑑・ 補遺・ 発行	改訂			連続					刊行予定			
	年鑑			Britanica, Book of the year								
	補遺	昭6-10 1巻 昭24-25 2巻				増補の巻た えず発行			月刊<国民 百科>追補 の形〔予定〕			
記 述	傾 向	アジア中心 国粹主義的		アメリカ的 色彩の傾向			アジア中心					
	量				語彙が多い	科学・芸術 に沢山充て る						
書 誌			乏しい	豊富で権威 がある		豊富で権威 がある	乏しい					
挿 図			図や表によ つて解説省 略	図版自然・ 科学関係項 目がおも である	図や表によ つて解説を 省略	美術関係の 図版すぐれ ている 地図が豊富	質量とも最 高	別刷挿絵が 美しい		質量とも最 高		極端に少な い
索 引		不 充 分	不 充 分	詳細参考 索引(参照 項目)をも 併せている								
そ の 他					あくまでも 利用者の便 宜を考え説 明は簡潔に ばつて領が わかる					読む百科 見る百科		

B 本 文^(I) ・ 項 目^(II)
(I)

事典名 区分	大 百 科	国 民 百 科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ハ ウ ス	イ タ リ ア ナ	世界大百科	日 本 百 科	国 民 百 科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
総 卷 数	26	12	23	20	35	31	13	7	32	6	10
1 卷 の 頁 数	650	990	1,000	780	1,000	505	600	676	693	750	500
総 頁 数	16,900	10,800	23,000	15,600	35,000	15,665	7,800	4,735	20,792	4,500	5,000
1 頁 の 段 数	4	2	2	2	2	3	4	3	2	4	4
1 段 の 行 数	36	54	72	69	75	68	39	66	52	34	22
1 行 の 字 数	20	23	53	43	60	20	20	16	22	20	18
1 頁 の 総 字 数	2,880	2,484	7,632	5,934	9,000	4,080	3,120	3,168	2,288	2,720	2,304
全 卷 の 総 字 数	48,672,000	26,827,000	175,536,000	9,257,000	315,000,000	63,913,200	24,336,000	15,000,480	47,572,096	12,240,000	11,520,000
全 卷 総 字 数 の 比 率	15.5	8.5	55.7	29.4	100	20.3	7.7	4.7	15.1	3.8	3.6

(II)

事典名 区分	大 百 科	国 民 百 科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ハ ウ ス	イ タ リ ア ナ	世界大百科	日 本 百 科	国 民 百 科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
項 目 数	104,000	102,000	45,000	150,000	56,000	80,000	50,000	18,200	150,000	33,000	25,000
比 率	69.3	68	30	100	37.3	63.3	33.3	12.1	100	22	16.6
1 項 目 当 り 平 均 頁 数	0.162	0.105	0.511	0.104	0.625	0.195	0.156	0.26	0.138	0.136	0.2
同 上 比 率	25.9	16.9	81.8	16.6	100	31.2	24.9	41.6	22.08	21.7	32
1 項 目 当 り 平 均 字 数	468	263	3,900	617	5,620	798	486	824	317	370	460
同 上 比 率	8.3	4.7	9.4	11	100	14.2	8.6	14.6	5.6	6.5	8.2

→ 注 10 ←

C 文 献

事典名 区分	大 百 科	国民百科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ス	イタリアナ	世界大百科	日本百科	国民百科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
文 献	な し	な し (特殊な場合のみあり)	あ り	あ り	あ り	な し (特殊な場合のみあり)	な し	な し	な し	な し	な し

D 挿 図

事典名 区分	大 百 科	国民百科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ス	イタリアナ	世界大百科	日本百科	国民百科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
別刷挿絵数	1,300	900	1,500	1,100	6,300	800	700	820	3,086	(1,491)	210
(彩色版数)	(200)	(200)	(100)	(200)	(400)	(300)		(120)	(2,424)	(1,491)	(80)
本文内挿絵数	16,000	12,000	13,500	11,000	32,000	35,000	16,000	9,000	36,667	12,000	
(彩色版数)				(200)					(9,427)		

→ 注 10 ←

E 地 図

事典名 区分	大 百 科	国民百科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ス	イタリアナ	世界大百科	日本百科	国民百科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
別刷地図	120	150	150	500	150	500	な し (別 冊)	な し (別 冊)	81	96	
本文内地図	500	500	300	500	1,400				675	534	

→ 注 10 ←

F 索 引

事典名 区分	大 百 科	国民百科 大 辞 典	ブリタニカ	ブ ロ ッ ク ス	イタリアナ	世界大百科	日本百科	国民百科 大 事 典	玉 川 百 科 大 辞 典	現代新百科	家庭大百科
索 引	あ り	あ り (地図のみ)	あ り 参考索引(参 照項目)も併 せて	な し	な し	あ り	あ り	あ り	あ り (分野別)	あ り (分野別)	あ り (各 巻)

疑義をもたれる場合も多いであろうが、弥吉光長の「参考図書選択の条件」^{註9}には、次のような項目を例挙している。

「A. 著作事項

- 1 著者（編者，執筆者） 専門家の執筆とベテランの編集。
- 2 出版者。まじめな企劃・出版業績の誠実さ。
- 3 出版事項。改訂版，改訂の程度，補遺だけ購入されるか。これには旧版との比較が必要である。発行年と内容の新旧に注意すること。

B. 内容

1 主題 (a)範囲。

(b)編集法，全体の構成，項目の立て方，それは大項目か小項目か，参照と索引の如何。

(c)知識，正確と新しさ。引用の正しさ。書誌の詳細正確。

2 表現 語句，文章，文体，絵画，写真，地図，図表の正しいか。

C 形態

1 用紙。2 印刷。3 図版。4 造本。5 価格。

内容については充分調査すべきである。内容の評価は専門家でないと困難であるが他の類書と比較するがよい。自分の熟知する事項については比較するのが，最もよい方法で欠点が発見される。表現の巧みさについては知らない事項を読み比べて，どちらがよく判るかによって知られる。」をわれわれは一応評価の基準としてみとめ，特にB. 内容を主として解明したい。(第2表)^{註10}

項目のたて方とその特色

こうしてみると，百科事典は，だいたい体裁がきまっているといえる。もちろん，それが書かれた言語，大項目か（たとえば *Enciclopedia Italiana* 36巻）小項目か（たとえば大百科事典28巻，国民百科大辞典14巻，*Der grosse Brockhaus* 21巻，表にはないが，*Grand Larousse encyclopédique* 10巻，*Encyclopedia Americana* 30巻）小項目に大項目を重複して採用し，参照で連絡させ，索引で判り易くする折衷式か（たとえば *Encyclopaedia Britannica* 24巻，世界大百科事典32巻，表にはないが，*Bol'shaya Sovetskaya Entsiklopediya* の51巻）により分量はさまざまであるが，いずれもたくさんの項目をアルファベット順，五十音順に排列し，それに適当と思われる解説をつけている。しかし，それだけが百科事典の構成方法ではない。もつと眼界をひろくして，今昔の百科事典を見るとたとえば表にはないがプリニウスの博物誌，和漢三才図会からはじまり玉川百科大辞典，家庭百科大事典，表に現わさなかった，*Encyclopédie Francaise*，*Our Wonderful World* は，極端な大項目主義（分野，主題別）で，編集の一つの方向として興味をひく。このつくり方は，各巻ごと（但し和漢三才図会を除く）にある一つのことがらについて徹底的な究明をおこなおうとしているいわば学問体系にのっとった記述である。たとえば *Our Wonderful World* の第12巻は，野球となっているので，この第12巻を読めば，野球に関して知りたいことが，細大もろさず収められている。前者（一般的体裁）は，なにかを調べてみようとする場合には，実用的で明らかに便利，後者（極端な大項目主義（分野，主題別））は，系統的に調べあげたいときには，後者が効力を発揮するようである。それは，教

育的・学習的色彩が強く、体系的・系統的・部門別なので、読む百科・見る百科として便利であり、前者のように、つなぎ部分のあいまいのままに利用に手間と時間を要しない。しかし、原始的で実用的でないので、利用に不便ともいわれている。

さらに、百科事典の性格と、言語（国語）辞典の性格とを併用し編集した Larousse があり、フランスの百科事典の一つの特色ではないかと思う。なお、Italiana、玉川百科大辞典もこれに類似している。小項目は見つけ易いが解説が簡潔で不満足、大項目はとっつきにくい但内容は詳解、折衷は大項目を中核としながら、小項目の相当数を収載している近代的な百科事典の編集法であって、小項目、大項目の欠点を補うくふうがなされて、利用者の要求にこたえるよう考慮されている。なお、Larousse の方法は言語辞典と百科事典、たがいにその長所を生かして内容を豊かにし、機能を拡大強化するねらいである。一項一解主義と総合解説を交え解説を関連的に取扱う独得な特色がある。

記 述

民族的、政治的、宗教的偏見や、傾向の強いことはさげ、客観的に取扱うべきが理想であるが、Larousse は客観的、科学的編集を標榜しながら一面的な西欧の観点から編集し、たとえば、政治の事項にこの傾向が目につくし、項目の選択にもそれが出ている。Bol'shaya Sovetskaya Entsiklopediya は社会主義的色彩が強く、たとえば、外交・政党の面、Americana は外国資料特にアジア諸国の事項が不正確、Our Wonderful World はアメリカ大陸中心的、たとえば項目のとりかた、大百科事典、世界大百科事典ともアジア的色彩に富む又大百科事典は時代の文化的情勢のためか、歴史的項目は国粹主義的な面がある。東西ともに自国中心主義で記述の公平という面で問題がある。

関 係 書 誌

知識の総合集成が百科事典であるが、完全な解答を期待することは困難である。更に他資料文献により調査するため関係文献を付するのが、利用者に対する責任であるといはねばならない。国民百科大辞典、世界大百科事典は、特殊な場合のみ文献紹介をしているが、このような片手落の紹介、形式的に一二の文献をあげるだけでは、じつは手引としてはかえって危険を伴うおそれがある。外国書の文献などは専門研究者以外ほとんど利用便宜のない場合の多いのが、実情かも知れないが十分な文献紹介が整備されていなければ、利用者は課題の研究調査を発展させることができないし、出典のない記述についてどの程度の信頼度をおいてよいか、全く不安である。特に筆者の立場によって、定義の異なる場合には、編集者は出典を明示することによって、偏向の責任を免れうるが、これが明示されないときは、編集者の独断・速断と言われても弁解の余地はない。わが国の百科事典が、外国のそれに比べ残念ながら最も非良心的であるのはこの点である。

改訂・年鑑・補遺発行

製作に長年月を要し、新事態に処する改訂増補も容易でない百科事典ではあるが、他の出版物より一層新しい知識正確な知識とを要求される、したがって、Up-to-dateなものにするため、Britannica、Americana は連続改訂方針が採られ毎年新版を刊行現在に及んでいる。わが国では国民百科大辞典が改訂刊行の準備を進めている。新版・前版の比較、改訂の程度を確かめる、特に発行年と内容の新旧に注意する必要がある。しかし利用者の立場

から再購入は未改訂部分については莫大な金額の二重投資となる。この点、Encyclopédie Française 21巻は loose-leaf binding で改訂部分の加除のみで未改訂部分の二重投資は免がれる。なお、Britannica, Americana とも年鑑補遺として、Britannica, Book of the year, Americana Annual を発行、Italiana は増補の巻たえず刊行、わが国では、大百科事典が昭和6-10年補遺1巻、昭和24-25年補遺3巻刊行、国民百科大事典が月刊〈国民百科〉で最新の時事資料を百科事典の追補として刊行する予定であるが、未だ追補としては出されていない。年鑑補遺は知識の新しさを補う意図から考えられた方法ではあるが、いずれもまだ完全な方法とはいえない。

挿 図・地 図

Der grosse Brockhaus, 国民百科大辞典は挿図によって解説の短縮を図っている。Italiana は美術関係の図版は特にすぐれているし、地図が豊富である。Larousse は本文中に色刷りの写真などを使って、見た目もたいへん美しい。わが国では日本百科大事典の別刷挿絵が美しい。玉川百科大辞典、世界大百科事典は質量とも特に photograph が多く世界の最高級で、視覚教育に良い。これとは対照的なのは、Britannica で自然科学関係項目をのぞけばほとんど図版がない、さらに Bol'shaya Sovetskaya Entsiklopediya は意外なほど多色刷は少なく、写真はほとんど黒白、挿絵数も少ない。わが国では家庭百科大事典が極端に少ない。Americana は外国の挿図・地図が不備である。

索 引

索引は本の内容を目次よりも詳しく分析し、その項目をアルファベット順、五十音順に並べたものである。代表的索引は Britannica であって、参考索引（参照項目）をも併せている。詳細にして正確また親切、見本とされる。Americana は索引はないが、項目相互に連絡し、どんな項目でもさがし出せるようくふうしてある。わが国の索引は、第1表のとおり粗雑でありまだまだ改良くふうすべきである。特に参照は不十分で誤りが多い。

む す び

Britannica, Der grosse Brockhaus, Italiana, Grand Larousse Encyclopédique, Bol'shaya Sovetskaya Entisklopediya は世界五大百科と呼ばれ、Bol'shaya Sovetskaya Entisklopediya は51巻項目数96000（項目の立て方は折衷式）図版40852質量とも世界第一位である。また、Italiana は全項目に執筆者の署名があり、欧米の百科事典中最も権威あるものとして認められている。百科事典の代名詞にさえなっていた、Britannica も13版出版後版権はアメリカの Chicago 大学出版局に移り、14版は Chicago 大学を中心とし、Cambridge, Oxford, London 各大学の教授団の編集で根本的に改訂刊行されたが、アメリカ的な最新の知識を集め、簡明な説明を付することになり、ために新項目の挿入と小項目への分割は大項目を圧縮し、総合的な解説にあらずして、小項目とり入れの整理作業が中心点となって、総合の解説でない。以前の世界的名声と比べるわけにはいかない。現在は、London, Chicago, Toronto, Genève で出版されているが、アメリカ的色彩の傾向にある。したがって、解説において、日本の現実が外国の百科事典にまで反映されるようになるまでにはまだかなりの時を必要とする。Italiana は科学・芸術に沢山な量を充て解説内容も精緻、Bol'shaya Sovetskaya Entsiklopediya は項目の50%が自然科学・技術関係

である。Americana はアメリカの都市・自然科学や科学技術が充実、書物・演劇作品・音楽作品解説にすぐれているとか、Der grosse Brockhaus や国民百科大辞典は解説省略を図表によるとか、またわが国の百科事典の共通点としては、編集者の良心、特に研究的潔癖さの欠如、書誌の不備、学術用語の不統一、不必要な巻別項目表を付しているとか、それぞれに特色を備えている。百科事典は百科の知識を総合・集大成するものであるといっても、自然科学・社会科学・人文科学をとわずあらゆる研究分野において一時も止まることなく、新たな知識は年々増加するが、百科事典の性格上、その量はぼう大なるがため刊行に長年月を要し、新事態に処することは不可能である。したがって、いずれの百科事典（知識の範囲や資料）も充分ではないし、いわんや日本語による百科事典は、一度に百人の相談相手と指導者を得る、という理想には程遠いものであるために、図書館には各種の百科事典を準備して Reference に応えなければならないのである。（昭和41年9月30日 受理）

引用文献

- 注1 文部省編 学術用語集図書館学編 大日本図書 昭33.5 p.258
 注2 日本図書館協会 図書館ハンドブック改訂版 日本図書館協会 1960.2 p.570
 注3,4 岡部史郎 図書館とレファレンス 信濃毎日新聞 昭38.1.20
 注5 Mudge, Isadore. Guide to reference books, 6. ed. 1936. Preface.
 注6 木寺清一, 埴岡信夫 レファレンスの手引 日本図書館研究会 1954.3 p.63
 注7 天野敬太郎 学習百科件名目録 蘭書房 1953.12 p.12
 注8 中村博男 事典・辞典を検索して 出版ニュース 通巻643 昭39.12 p.23
 注9 弥吉光長 参考図書の問題 理想社 昭30.4 p.12
 注10 安西久良 百科事典考 書香 116号 昭14.7 (第2表B, D, Eの大百科事典, 国民百科事典, ブリタニカ, ブロックハウス, イタリアナの数字)

Summary

A STUDY OF JAPANESE AND FOREIGN ENCYCLOPEDIAS —THEIR COMPARISON, ANALYSIS, AND EVALUATION—

Katsutaka ITAKURA and Hiroo NAKAMURA

An encyclopedia is said to be a 'synthesis and collection of knowledge,' but it may be observed that the knowledge there is relative to the cultural circumstances under which the encyclopedia is published. Even the newest does not contain full and perfect contents, and so it may be complemented for its defects by the older ones. On the other hand, it may be necessary to refer to other materials. Those considerations tell us that it cannot be used uncritically. It may be said in this sense that to compare, analyse many kinds of encyclopedias, and further to investigate their characteristics and limitations are quite necessary both for their effective uses and for editing them.